

神楽の文化史

社会科学

すずき まさたか
鈴木正崇 著

▼46判・上製カバー・514頁・定価 四、九五〇円

2025年12月刊行



変容と消滅の危機に直面する神楽。
民俗学・宗教学・芸能史・演劇史という学問的枠組みを超えて、神楽とは何だったのかを問い、未来を切り開く道筋を見出したい。神楽やその他の伝統芸能の継承に携わる全ての人に送る。

【目次より】

まえがき

第一章 伝承を持続させるものとは何か
——比婆荒神神楽の場合——

第二章 神楽の中の巫者

第三章 大元神楽の変容

第四章 湯立神楽の意味と機能
——遠山霜月祭の考察——

第五章 神楽の近代——大乗神楽の事例から

第六章 目連の系譜——死者供養の神楽

第七章 「民俗藝術」の発見
——小寺融吉の学問とその意義——

第八章 神楽研究の再構築へ向けて

参考文献／図版クレジット

あとがき

◆著者略歴

鈴木正崇（すずき まさたか）

一九四九年、東京都生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。慶應義塾大学名誉教授。前日本山岳修験学会会長。
主な著書に、『中国南部少数民族誌』（三和書房、一九八五年）、『山と神と人』（淡交社、一九九一年）、『スリランカの宗教と社会』（春秋社、一九九六年）、『神と仏の民俗』（吉川弘文館、二〇〇一年）、『女人禁制』（吉川弘文館、二〇〇二年）、『祭祀と空間のコスモロジー』（春秋社、二〇〇四年）、『ミヤオ族の歴史と文化の動態』（風響社、二〇〇二年）、『山岳信仰』（中央公論新社、二〇一五年）、『東アジアの民族と文化の変貌』（風響社、二〇一七年）、『熊野と神楽』（平凡社、二〇一八年）、『女人禁制の人類学』（法蔵館、二〇二一年）、『日本の山の精神史』（青土社、二〇二四年）、『山岳信仰と修験道』（春秋社、二〇二五年）。
受賞歴として、一九九七年に義塾賞、二〇一四年に第一回木村重信民族芸術学会賞、二〇一六年に第一回秩父宮記念山岳賞（日本山岳会）を受賞。

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
<http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp

注文書 (書店印)	
様	ご担当
冊	
法蔵館	鈴木正崇著 神楽の文化史 ISBN: 978-4-8318-5743-9 C3039
定価 四、九五〇円	お住所 お電話 お名前